



辰巳小だより

江東区立辰巳小学校

校長 景山 賢治

学校だより第2号

令和8年6月30日

(ホームページアドレス) <http://tatsumi-sho.koto.ed.jp>

あきらめない心と、互いをたたえ合う美しさ ～ワールドカップから学ぶこと～

副校長 鈴木 伸之

新緑のまぶしい季節から、少しずつ夏の気配が近付いてまいりました。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、現在、世界の強豪が集うサッカーの「FIFA ワールドカップ」が開催されており、ニュース等で連日大きな盛り上がりを見せています。世界の舞台に挑む日本代表「サムライブルー」の選手たちが、強敵を相手に一歩も引かず、ピッチを全力で駆け抜ける姿は、私たちに大きな感動と勇気を与えています。

惜しくもブラジルに1-2で敗れましたが、どのような局面に立たされても、仲間を信じて声を掛け合い、最後の1秒までボールを追いつける選手たちの姿からは、「あきらめない強い心」と「困難に立ち向かう一歩踏み出す勇氣」の大切さを教えられます。テレビの画面越しからも、彼らの「絶対に次へつなげるんだ」という強い執念と気迫が伝わってきて、胸が熱くなります。

そしてもう一つ、私たちがこどもたちと共に注目し、深く学びたいのが、日本の伝統とも言える「フェアプレー」と「リスペクト（敬意）」の精神です。

激しい攻防の中でもルールを厳格に守り、相手選手が倒れればすぐに手を差し伸べる。試合が終われば、勝敗の結果に関わらずお互いの健闘をたたえ合い、笑顔で握手を交わす。こうしたピッチ上の振る舞いはもちろん、試合後のロッカールームをピカピカに掃除して「ありがとう」のメッセージを残して後にする選手たちや、客席のゴミ拾いをすすんで行う日本サポーターの姿は、毎回世界中から絶賛され、大きな称賛を浴びています。

こうした行動は、一朝一夕でできるものではありません。普段からの「周りの人やモノを大切にする」という高い意識が、世界の舞台という大舞台でも自然と表れているのです。これこそが、スポーツの本当の素晴らしさであり、私たちがこどもたちに育みたい「豊かな心」の最高のお手本ではないでしょうか。

学校生活も、このワールドカップの舞台と全く同じです。勉強や運動、日々の委員会活動や行事の中で、上手くいくことばかりではありません。時には失敗して落ち込んだり、友達と意見がぶつかったり、悔しい思いをすることもあるでしょう。大切なのは、結果がどうあれ「最後まで全力を尽くすこと」、そして「一緒に頑張った仲間や、競い合った相手を大切に思い、認めること」です。自分がされて嬉しいことを相手にも行い、お互いに「ありがとう」と言い合える関係を築くことです。

本校でも、こどもたちが日々の生活の中で、失敗を恐れず何度でも挑戦する心と、お互いを思いやり、高め合える「フェアプレーの精神」を育めるよう、教職員一同、温かく見守り、指導してまいります。

ご家庭におかれましては、ぜひお子様と一緒に試合を観戦しながら、勝敗だけでなく、選手たちのプレーの裏側にある「一生懸命さ」や、世界に誇れる「マナーの素晴らしさ」について、ぜひ言葉にしてお話ししてみたいかがでしょうか。